

北の森林 国有林

平成21年
2月
No.105

北海道森林管理局



宝物に向かってよーいドン！国設阿寒湖畔スキー場
(阿寒国有林・レクリエーションの森)



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林

●北海道森林管理局長賞（森林技術部門）
 「天然下種更新によるカラマツ複層林の
 造成について」
 十勝東部森林管理署 川越さん・佐久間さん
 北海道のカラマツは、齢級配置が高齢級に偏り、一過
 性資源に終わるとの懸念が持たれています。
 このようなカラマツ人工林の資源保続を図るため省力
 化と経費を抑えた「天然更新」による複層林造成の可能
 性を報告しました。



研究成果を一堂に

平成20年度 北の国・森林づくり技術交流発表会



●北海道森林管理局長賞（高校部門）

「チョウの来る庭ビオトープ」の昆虫相と種間関係

札幌藻岩高校フィールドサイエンス部 古屋敷さん・齋藤さん

昨年、規模を拡大した同校のビオトープは、植物も多く見られるようになりました。そこに棲む全ての昆虫とクモを記録し、「食う、食われる」の関係に注目し、食物網をまとめ報告しました。



●日本森林林業振興会会長賞

「野幌国有林における外来種駆除の取組について」
 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター
 山本さん



●日本森林技術協会理事長賞

「治山施設の落差解消による魚類の遡上調査」
 上川北部森林管理署
 浅野さん・吉川さん



●森林管理局特別賞

「月形スギ保護林の保護対策について」
 空知森林管理署
 玉鎖さん・菊地さん



「緑の回廊整備特別対策事業に伴う地表処理後の稚樹の発生について」
 東大雪支署
 赤坂さん・西山さん

二日目は、森林管理署から林道研究発表会奨励賞受賞発表一課題、試験研究機関から三課題の特別発表と株式会社NERC（自然エネルギー研究センター）の大友取締役センター長による特別講演が行われました。

特別講演では「森林資源の現状と今後の展望」と題して「木質バイオマスエネ

一日目は、森林管理署等をはじめ、自治体、高校、NPO等から森林技術部門九課題、森林ふれあい部門九課題、高校部門三課題の計二十一課題の一般発表が行われました。

北海道森林管理局では、森林・林業に係る技術情報等の交換を図るため、一月二十九日（木）から三十日（金）の二日間にわたり、同局大会議室において、「北の国・森林づくり技術交流発表会」を開催し、約二百人の来場者がありました。



●北海道森林管理局長賞(森林ふれあい部門)

「知床における環境教育の推進について」

知床森林センター 久田さん・岩本さん

森林に対する国民の期待や要請が多様化する中、世界自然遺産を背景とした知床での過去十年の環境教育活動の実施とアンケートの結果から、今後の課題や目標を明確にし、現在求められている環境教育プログラムを検討し報告しました。



■特別講演

森林資源の現状と今後の展望

(株)NERC 取締役センター長
大友 昭雄 氏

自然エネルギーの総合コンサルタント、北海道大学発のベンチャー企業でもある同社は、木質繊維断熱材、木質ペレット生産、林地残材活用などの事業を展開しています。林地残材は、その8割以上が未利用であり、これらを断熱材や燃料として使うことは、高付加価値化にもつながり、地域循環、地産地消にも貢献できると力説されました。

ウッディーホールで行われた
パネル展&写真展



←各団体の取り組みがポスターで展示されました



→根釧西部森林管理署
「我が署の四季いろいろ」
カレンダー展



←保全調整課
広報紙
「北の森林国有林」
表紙写真展

●奨励賞受賞者のみなさん



→帯広農業高等学校
倉部さん、加藤さん、
佐藤さん

→胆振森づくりセンター
佐々木さん



←寿都町
Club風の学校
蛭沢さん・土開さん



←岩見沢農業高等学校
笹森さん、前田さん



→北海道山岳ガイド協会
伊藤さん



ルギー」(伐採後に残される枝や梢、製材工場などから発生する樹皮やの屑などを燃料としたもの)を利用するためのコストなどの問題点や利用環境の整備の必要性、また活用により雇用創出をもたらす産業の可能性等についての話題が展開されました。

また、両日、一階ウッディーホールでは、北海道山岳ガイド協会、北海道札幌岩高等学校、石狩地域森林環境保全ふれあいセンター、知床森林センター、空知森林管理署の五団体による取組紹介のポスター展示や本局の保全調整課による広報紙「北の森林国有林」表紙写真展、根釧西部森林管理署による「我が署の四季いろいろ」カレンダー写真展が行われ、こちらにも多くのおみなさんが興味深く見入っていました。
(指導普及課)

み込んで作業効率をアップ！



↑大勢の林業関係者が注目する中、デモンストレーションが行われました。



低コスト・高効率作業システムを普及

高性能林業機械・ハーベスタと土そりによる
作業システム現地検討会

石狩森林管理署

当日は、時折晴れ間も見える中、午前中は、(独)森林総合研究所北海道支所の佐々木尚三主任研究員を講師として、現地実演を中心にハーベスタ作業、土そりによる集材作業、ハーベスタと土そりを組合せた作業システム、チェーンソー伐倒、作業上の工夫、残存木への被害状況、林地保全

一月十五日(木)に民有林・国有林の林業関係者を対象とした「高性能林業機械による生産性向上の普及」のための現地検討会を北広島国有林において北海道石狩支庁と石狩森林管理署との共催で開催し、管内の林業事業者、石狩空知流域の森林行政機関から約六十名が参加しました。

これは間伐等の森林整備を推進していく上でコストの縮減が重要課題であることから、高性能林業機械による生産性向上を実際の事業に携わる林業事業者等へ普及・啓発することを目的としたものです。

石狩空知流域の森林管理署及び支庁合同で、石狩空知流域森林・林業活性化協議会とも連携し、「ペレット使って地球を守ろう!」のリーフレットを作成しました。

これは平成20年度の流域管理推進アクションプログラム実施メニューの取り組みの一環として、石狩支庁管内、空知支庁管内、後志支庁管内(一部)の林業関係者、関係団体及び農業関係者に配布する予定で3万部を印刷しました。

内容は、ペレットと森林とのかわり、ペレットストーブ・ボイラーの紹介、北海道ペレット生産マップ、同活性化協議会の説明や同流域の国有林における取り組みなどを掲載しています。

木質バイオマスエネルギーの利用・普及は、森林整備への貢献や低炭素社会の構築に役立つことから、このリーフレットを活用し、積極的なPRに努めていきたいと考えています。

石狩空知流域森林・林業活性化協議会



システム生産性等の解説をしていただきました。参加した林業事業者からは、ハーベスタと土そりを組合せた作業システムに質問と興味が集申し、検討会個所で実際に作業を実施している(株)王木林材の小林氏からオペレーターの立場からの解説等もあり、実のある有意義な現地検討会になりました。

午後からは会場を移して質疑・情報交換等を行いました。後日、参加者した林業事業者からは「土そりによる集材する作業は、効率的でコストの低減という観点から非常に参考になった」、「いい勉強になったので今後も企画してほしい」等の感想を多数いただきました。

今回は、北海道石狩支庁と共催で現地検討会を開催することができ、この取組みを機に更に情報の交換・共有化を図り、低コスト・高効率作業システムの普及、森林整備協定等の推進について連携を深めていく考えです。

(杉村 流域管理調整官)



↑日本最大規模の石灰華「丸山石灰華」と番人?のシカの親子

署長雑感

東大雪支署管内の秘境紹介

裏だからこそ守られた奇観

十勝西部森林管理署
東大雪支署

支署長 かつら 勝占 保



に開けた地域でもありま
す。
しかし、なぜか昔から旭
岳や層雲峽を中心とした区
域が「表大雪」、十勝側は「裏
大雪」と呼ばれ、地元民と
しては「裏」という言葉のイ

十勝西部森
林管理署東大
雪支署は、十
勝平野の北部
四町(上十幌、
十幌、鹿追、
新得)にまた
がる約十五万
畝の国有林野
を守り育てい
ます。
これらは北
海道の屋根・
大雪山国立公
園のうち三国
峠から十勝岳
に至る稜線を
北辺とした南
側に位置し、
面積的には同
公園の半分以
上を占め、ま
た、太平洋側

昨年実施された学術調査
によると、石灰華としては
日本最大規模、火山性噴出
物が長年(少なくとも
六〇〇年以上)堆積して現
在の状況になったとのこと
これだけの壮観、宣伝す

メージに少し屈折した
思いを抱いていました。
さて、今回はそんな
裏大雪に人知れず存在
する秘境の一つ「丸山
石灰華」を紹介します。
石灰華は登山客に人
気のニペソツ山にほど
近い丸山の近く、作業
道終点から三キロほど沢
を辿った場所に存在
し、見事な苔に覆われ
た沢を登り、獣道を進
んで樹林帯から開けた
場所に出たとたん、一面の
雪景色とも見まがう異様な
景色が広がります。
遠目には石灰質の白が目
立ちますが、よく見てみる
と、部分的に黄褐色、赤褐
色、黒灰色等、噴出物の成
分によってまだら模様にな
り分けられています。

この地域を訪れる人がほ
とんどなく、静かに守られ
ていたからこそ、この感動
があるのかと思うと、「裏」
も悪くないかと思つた次第
です。

ればさぞかし観光客を呼び
込めるだろうと、俗な妄想
を働かせてしまいましたが、
だれにも踏み荒らされてい
ないからこそ、この景色が
あるのは明らかです。
国立公園特別地域でもあ
り、一般に開放するには相
当な検討・準備が必要でし
よう。



↑みごとに苔むした滝の真上に「丸山石灰華」はあります。

自然 to 遊び隊!

第 4 話

自然の中で楽しく遊び、
その大切さ、すばらしさ体感!
道内各地で活躍中の「隊長さん」からの
メッセージを紹介します



目指せ! てしかがマスター!
～ふるさと自慢をできる子どもの育成～

川湯エコミュージアムセンター

もりのパレット探検隊

北海道東部に位置する弟子屈町は、日本最大規模の屈斜路カルデラと屈斜路湖・摩周湖、そして湖畔に広がる原生の森があり、「火山」「湖」「森」に特徴付けられます。

自然と人との距離が近く「がんばらなくても質の高い自然を楽しめる」のが大きな魅力で、町をあげて観光を軸とした地域づくりであるエコツーリズムを推進しています。

エコツーリズムが持続可能であるためには、環境を保全する仕組みづくりと、それらを担う人材育成は大変重要な課題です。

しかしながら、町の人にとって、この素晴らしい自然が、必ずしも「素晴らしい」と認識されてはならず、まずは「ふるさと自慢ができる人」を増やしていかなければなりません。特に次世代を担う子どもたちへの環境教育は大変重要であると考えています。

そこで、川湯エココミュニ

シムセンターでは、ふるさと自慢ができる子どもの育成を目指し、町内の学校向けのプログラムのほか、主催の自然体験プログラム「もりのパレット探検隊」を行っています。

もりのパレットとは当センターの愛称で、弟子屈町の四季折々の自然の色を混ぜ合わせたパレットをイメージしています。

パレットの上のそれぞれの色を効果的に子どもたちに伝えるべく、ストーリーを意識したプログラムを作りあげ、思い入れたっぷりの仕掛けで演出するのです。

細やかに作り上げられたプログラムではありますが、森に入った時は特に演出を考えずに自由な散策を心がけることもあります。少しの気づきの促しと適度な安全管理さえあれば、子どもたちは実に自由に遊びます。

拾った枯れ枝でチャンバラごっこをする男の子、草花を愛でる女の子、ひたす



今月の隊長さん

川湯エコミュージアムセンター
はぎわら ひろのぶ
指導員 萩原 寛暢さん

旭川市生まれ。阿寒国立公園の来訪者へのインフォメーション業務のほか、地元の学校における地域学習の支援や子ども向け環境教育プログラムに取り組む。

URL : http://www6.marimo.or.jp/k_emc/

ら穴ほこを探す小学一年生……。これぞ多様な刺激にあふれる「森のチカラ」なのでしょう。

地域を担う次世代である今の子どもたちは、地球規模の環境問題にも取り組むべき世代でもあり、そのためにもこうした体験活動を通して、まず足元の環境を知ることが重要であると考えます。

地道な種まきではありませんが、これからも子どもたちと森に出かけていこうと思います。



釧路市国設阿寒湖畔スキー場

根釧西部森林管理署

レク森紹介

スキー 行こう!



国有林には、その自然環境を活かした、すばらしいスキー場が広がっています。このコーナーではその魅力の数々を紹介していきます。



1



2



3



4

- ①阿寒の森の中へスキーでGO!
- ②スノーボード専用コースで弾けるボーダー
- ③キッズパークは子どもたちの歓声でいっぱい
- ④山頂の展望台からは阿寒湖と雄阿寒岳の大パノラマが楽しめます

みんなおいでよ!

キッズパーク!

釧路市国設阿寒湖畔スキー場は同市中心部から国道二四一号を北へ約八〇キロ、阿寒湖温泉街から車で五分のところにあります。

シーズン中の利用者は約三万九千人、昨年から場内に開設された子どもたちが雪遊びを楽しめる「キッズパーク」が人気で、週末は家族連れで賑わっています。

海外のみなさんもスキー

近年阿寒湖温泉には多くの外国人観光客が訪れており、「ツアーのメニューに「スキー場で遊ぶ」企画が用意されており、ゲレンデには東南アジア系の言語が飛び交い、賑わいを一層のものにしています。

絶景! 阿寒湖と雄阿寒岳

一帯は野外スポーツ林に指定され、スキー場は白湯山の北斜面に位置します。夏場はキャンプや登山客でも賑わい、山頂には阿寒湖と

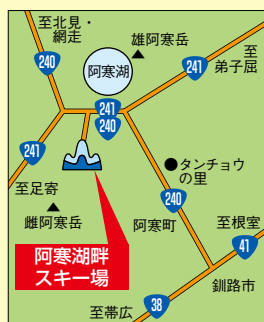
雄阿寒岳を一望できる展望台があり、六月頃から紅葉が終わる十一月月上旬まで国内外から多くの登山者が訪れて絶景を楽しんでいます。

ぜひ! 阿寒湖畔へ!

特別天然記念物のマリモと多くの鳥や魚たちが安心して住む阿寒湖。この湖に豊かな水と恵みを与えているスキー場を含む当地の野外スポーツ林にぜひ遊びに来てください!

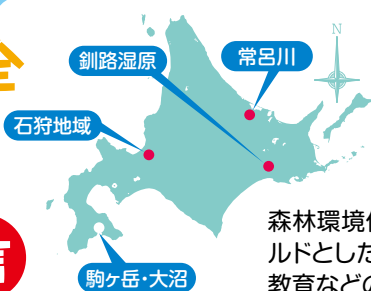
DATA

- 所在地 釧路市阿寒町阿寒湖温泉
- 開設期間 平成21年3月末まで
- 施設 ロッジ・リフト・スノーボード、ソリコース他
- 問い合わせ 釧路市阿寒町観光振興公社 0154-66-2936
- アクセス 釧路駅から
車…約1時間30分
バス…約2時間
阿寒町から車で約45分



森林環境保全 ふれあい センター

通 信



森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。



●雪の上も楽しく歩けるスノーシューを履いて冬の森林体験へ出発！



●エコマップを作るために体験したり、考えたことをカードに書いて貼りつけました。



学ぶべきこと、気づくこと

こども環境ウォッチングフォローアップ研修

常呂川森林環境保全ふれあいセンター

エコマップを作ろう！

一月十四日(水)、北海道常呂自然少年の家において行われた、北見市の「こども環境ウォッチングフォローアップ研修」のサポートを行いました。

これは、同市が子どもたちに北見の自然や環境問題を考えるきっかけにしようとおうと実施しているもので、当センターでは当日午前中に行われた冬の森林体験の中で学んだことをエコマップにまとめる作業をお手伝いしました。

カードにいっぱい書いて！

小学校高学年が対象ということで、作業では参加者自ら考えてもらえるように「森林が動物に対してどのような役割を担っているか」、「森林と自分の身の回りの物(家等)」と比べてみる」ことなどをテーマにし、子どもたちにそれぞれ考えたことをカードに書いてもらい、その理由も

発表してもらいました。
書いたことを

まとめよう！

子どもたちにとって、自分で考え、カードに書き、それを発表するという一連の作業は、さらに興味を深めたり、新しい疑問が生まれたり、考えを整理したりと、午前中の森林での体験をより深める上でとても有効だったようです。

エコマップへのまとめは時間が限られている中での作業でしたが、みなさん真剣に取り組み、とても素晴らしいマップができあがりました。

スタッフも子どもたちからたくさん学びました

子どもたちはこの研修で森林などへの理解や興味をさらに深めたようでしたが、私たちスタッフも子どもたちから、学ぶことや気づいたことがたくさんあり、それらは当センターの今後の取り組みのなかに活かしていきたいと考えています。
(佐々木 自然再生指導官)



①第14回釧路湿原自然再生協議会(12/16) ②ボランティアのみなさんと地ごしらえ作業③木のタネの豊凶調査④野生動物調査に活用している自動撮影装置



十二月十六(火)、釧路市で第十四回釧路湿原自然再生協議会が開かれまし
た。この協議会は、自然再生推進法に基づいて釧路湿原の自然再生を目的として平成十五年に設立され、地域住民、NPO、NGO、地方公共団体、関係行政機関、専門家などで構成され、

関係機関の連携を強めるとともに、地域の多様な主体との合意形成を図りながら事業を進めています。
現在、協議会では釧路湿原の自然再生に向けて六つの自然再生事業を実施中です。
その一つが、当ふれあいセンターが行う「雷別地区

**森林ボランティアのみなさんとともに
進む自然再生への取組
～釧路湿原～**

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

自然再生事業」です。
釧路湿原の上流に位置する雷別地区国宥林(標茶町内)では、平成十二年にトドマツ高齢級人工林の立ち枯れ被害が発生し、その跡地がササで覆われ更新が進んでいません。
このため、森林の機能を高めるために、ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ等郷土の広葉樹を中心とした森林づくりを進めています。

平成二十年度は、森林ボランティアの市民のみなさんとともに、稚樹の発生状況やタネのなり具合を調査したり、地ごしらえや植樹活動に取り組んできました。
この他にも、エゾシカの

生息状況の調査、土壌の凍結深度の調査、自動撮影装置による野生動物の調査など様々な面から自然再生にアプローチしています。
関心のある方はぜひ、当センターまでご連絡ください。
(渡辺 自然再生指導官)
住所 釧路市千歳町6の11
電話 〇一五四・四四〇・五三三



十二月二十一日(日)、

江別市の自然ふれあい交流館において、野幌自然公園で自然再生活動等に取り組んでいる「野幌森クラブ」のみなさんと同公園の管理についてのミニ懇談会を行いました。

今回は、先だって開催した当センター所長による「野幌自然公園の管理と現状の課題について」と題した講演を受けて行い、参加者のみなさんからは公園の管理に様々な行政機関が関わっていることや、自分たちが行っている森林づくり活動の位置づけがわかった

**多くの理解で進める
野幌自然再生**

野幌森クラブの
みなさんと懇談会

石狩地域森林環境保全
ふれあいセンター

といった感想や園内に侵入した帰化植物アメリカセンダングサへの対策、園内への犬の連れ込みや野鳥の餌台設置の是非、歩道を外れた林内への踏み入れ、危険木処理の扱い等多岐にわたる意見が出されました。
より良い公園利用のためには行政に多くの利用者を含めた関係者の合意形成の場を作って欲しいという希望も出され、森林の多様性の保全だけでなく利用者の多様性の理解も必要だと思

いました。
(志鎌 自然再生指導官)

みんなで楽しい 冬の森林教室



↑みんなで楽しく作業しました～！！

→割りばしゴム鉄砲、よ～く狙って発射！

↓万力でがっちり固定して、ノコギリをギコギコっと。



↑ここはこうすると上手くいくよ。ちょっとだけコツを伝授です。

知床の冬休み

親子で木工に挑戦しよう！

知床森林センター



↑ホットボンドで思い思いの材料をぴったり接着

↓材料はいっぱい、どれを使おうかな～



↓ノコギリで真剣にカットしてます



↑かわいい作品がどんどん誕生しました

参加者のみなさんには「親子でいろいろなものを作って楽しかった」と大変喜んでもらうことができました。
(清水 緑化第一係長)

大好評でした。

木工では、木材の長所である加工のしやすさや軽さ・ぬくもりを感じながら枝や幹、木の実などを使って自由に作品を作ってもらい、特に、ドングリで作る「トトロ」が

続いて、道産トドマツの天削箸でゴム鉄砲を作り、的当て大会を行い、子どもたちは賞品を目指して、真剣な表情でゴムを飛ばしていました。

木工では、木材の長所である加工のしやすさや軽さ・ぬくもりを感じながら枝や幹、木の実などを使って自由に作品を作ってもらい、特に、ドングリで作る「トトロ」が大好評でした。

一月十日(土)、北海道森林管理局知床森林センターでは、普段木材や樹木に触れる機会の少ない親子にこれらに興味・関心をもってもらうとうと、冬休み企画として「親子木工体験」を開催し、二十八名の参加がありました。

当日はまず、「割りばし」

について勉強し、国産割り箸は間伐材などから作られ、木材を無駄なく使っていること等を学びました。

→みんなはどんなの作ってるのかな？



↑やさしいお姉さんがついているから大丈夫！



↑宝物がかかっているんだからちやんと測ってよ～！



↑もうちょっと右かな？いや左～！！



←みんな真剣に作ります



→みんなはどんなの作ってるのかな？

岩見沢の冬休み

冬の森での仕事体験！

空知森林管理署



(杉尾 森林ふれあい係長)

これは宝の地図を頼りに測量しながら進み宝物をゲットするというものです。子どもたちは「測量コンパス」を正確に扱い、順調に雪の中に埋められた宝物を発見し、大変満足そうにしていました。

二回目の同十四日(水)には市内の利根別自然休養林で、スノーシューを履き、測量器械を使った宝探しゲームを行いました。

子どもたちは葉っぱや枝、草の穂先を思い思いに配置し、すてきな作品を作っていました。

空知森林管理署では冬休み中の子どもたちを対象に「冬の森でのしごと体験講座」を二回にわたって開催し、岩見沢市内の小学生十二名が参加しました。一回目の一月九日(金)には、NPO法人利根別の森ネットワークから講師を迎え、森から採取した素材を使ったリース・タペストリーづくりを行いました。

→クイズ形式で子どもたちの声をどんどん引き出しました



江別市大麻西小学校
1年生のみんなと

どんぐり教室
石狩森林管理署



↑質問に元気に答える子どもたち

(妻鳥 野幌森林官)

森林官の道具、木の太さを調べる「輪尺」や、山の広さを測る「測量コンパス」で遊んでみる体験も行い、子どもたちは、「今度は木を植えてみたい！」と元氣よく話していました。

二月二日(月)、石狩森林管理署野幌森林事務所では、森林官が「森の先生」となって江別市立大麻西小学校の一年生七十六名のみなさんと「どんぐり教室」を開催しました。当日はスライドを見ながら、クイズ形式で子どもたちに「なぜ森は大切なの？」と質問すると、「二酸化炭素を吸収する！」など一年生とは思えない単語が活発に飛び出しました。

森林官 リレー

北海道の背骨・日高山脈

豊かな森林を守り育てる



日高北部森林管理署
日高森林事務所
森林官
遠藤 正博



日高森林事務所は、

日高町内にある
国有林野のうち
約三五〇〇鈔を
管轄していま
す。

管内は北海

道にかけて南北
中央部から襟裳
岬にかけて南北
約一四〇キロに
連なる北海道の
背骨・日高山脈
が走り、豊かな
森林を源とした
沙流川が太平洋
に注いでいます。
また、戸鶯別
岳、チロロ岳、
ペンケヌーシ
岳、沙流岳など

標高一五〇〇級以上の高峰が
連なり、固有の植物も多種
に及びます。

山々は標高三〇〇〜 七〇〇級の地帯までは

ナラ類、カンバ類の広葉樹
にトドマツ、エゾマツなど
の針葉樹が混じった針広混
交林に覆われ、それより標
高が高い地帯ではエゾマ
ツ、ダケカンバなどの亜寒
帯林が形成されています。

日高町の街から望める

日高国際スキー場(北
日高岳・写真)は、国有林
を活用したレクリエーショ
ンの森に指定されており、
地元の小中学生のスキー学
習の場となっています。
天気の良い日にはここか
らも芦別岳や夕張岳、そし

て日高の山々を望むことが
でき、夏は登山コースとし
ても利用されています。

このような中、日高森 林事務所では現在、

人工林において、木の生長
をよくするために間引いて
本数を減らす「保育間伐」
を進めています。

雪や寒さで厳しい作業環
境ですが、将来立派な針広
混交林に育つことを願いな
がら作業をしています。

また、引き続き、立木を
伐採するために、材積、樹
種、材質などを調べる「収
穫調査」を行うことになっ
ており、冬期作業を「安全・
健康・無災害」で行うこと
もに、より良い山作り取り
組んでいきたいと考えて
います



前列左から2人目が遠藤森林官

日高森林事務所

- 沙流郡日高町栄町東2
- 電話01457-6-3400



各地からの便り



真 ← 子どもたちと一緒に協定記念写

森林で遊んで、学び、楽しむ

支笏湖小と石狩署が「支笏湖遊々の森」協定を締結
1月28日(水)、千歳市立支笏湖小学校と石狩森林管理署は、遊々の森における体験活動に関する協定を締結しました。

本協定は、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育む体験活動等に熱心に取り組んでいる同小の特色ある学校教育の実践と当署の森林環境教育のフィールド提供とがマッチングしたことから実現したものです。

協定箇所には、天然林と人工林を合わせた国有林4.5㏊を設定し、「支笏湖遊々の森」と名付けました。

同小では、春から森林や野鳥の観察、人工林の枝打ち、生育調査等の活動をスタートさせる予定です。



← 協定締結後に握手を交わす東出村長(左)と瀬戸口署長

農地とくらしを守る防風林

新篠津村と石狩署が管理協定を締結

12月11日(木)、新篠津村役場において新篠津村と石狩森林管理署は、国有防風保安林の管理協定を締結しました。

本協定は、村内に所在する国有林約37㏊について、地域住民のみなさんとともに連携・協働して維持管理を推進していくもので、期間は5年です。

主な実施事項は①防風林のパトロール(防犯・火災・不法投棄)②不法投棄されたゴミの収集③道路や農地などの障害となる危険木の処理や枝払い等です。

当署では、この取り組みを契機とし同村との連携をさらに深め、「国民の森林 国有林」を実践していきたいと考えています。



備 → プナをポットに入れて植樹の準備をする子どもたち

ブナ林再生のための山取苗を植樹

黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会

黒松内岳ブナ林再生プロジェクトでは後志森林管理署と森林整備協定を結び、黒松内岳の斜面約4㏊の国有林でブナ林再生に挑戦しています。

昨秋、私たちはSTVと北海道環境財団が実施する「あしたの森プロジェクト」環境活動支援助成金を活用し、子どもたちにブナに触れ、関心を持ってもらうために、子ども版ブナ林再生プロジェクト「ブナの木を植えよう」を開催し、ブナの山取苗を使った植樹作業を行いました。

子どもたちの心の中に自分たちが植えたブナがいつかは立派な森になる夢が育ってくれればと思っています。



署 → 国有林治山について解説する当署山本治山課長

国有林治山事業への理解深まる

胆振東部署が白老町民防災講座で解説

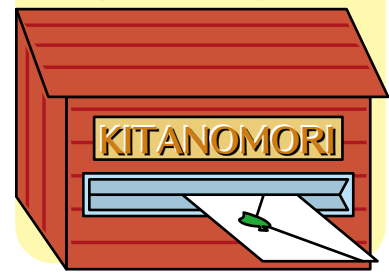
2月2日(月)に、白老町内の樽前山火山防災拠点施設で、地域住民のみなさんを対象にした第1回白老町民防災講座が開催されました。

当日は、未明に噴火が発生した浅間山の話もあり、「減災まちづくり」と題した新谷融北大名誉教授の講義、防災関係5機関からの講座があり、当署からは山本治山課長が講師として「治山事業の歴史や治山施設の効果」、「保安林機能の維持・向上」についてスライドを用いて説明し、地域のみなさんに国有林・当署の役割などについて理解を深めてもらいました。

→美しいブナ林を眺めながらの山行



お便り紹介



後志森林管理署黒松内森林事務所にて、黒松内岳に魅せられ毎年何回も登るという洞爺湖町に住む登山愛好家の主婦の方からお手紙をいただきましたので紹介します。

(松本 首席森林官)

■黒松内岳

北海道百名山の一つ黒松内岳は標

高七三九・八段。晴れた日には、日本海と太平洋を同時に望むことができます。

歩道脇にはエゾカンゾウやチシマフウロなどが咲き誇り、一目目の迂回路「ブナ林コース」から八合目までは所々ブナの回廊が迎えてくれます。

特に春の芽吹きや秋の紅葉時期のブナの純林は目を奪われる美しさです

ブナ林の美しい黒松内岳へ

先達て、友人の案内で黒松内岳に登って来ました。

登山口からの登りは最初から急登でアツと驚くほどの労力を要しますが、ブナ林の葉の落ちた原生林は、手つかずの自然が残され、圧倒されながら、立ち止まりながら、木々に対峙することは、この上ない幸せです。

マイナスイオンがたっぷりと肺の奥までしみ渡り、細胞が活性化するのが、伝わって来る様でした。

道案内の可愛らしい案内板も手作りとか、町民がいかにこの山を愛し、保全していることが伺えます。

5合目を過ぎる頃、視界が開け、大雪山のニベソツ山に劣らぬ山容を見せてくれます。

目前の山に圧倒されながら、高度をかせぐと、険しい沢筋や、日本海が視界に入り、もっともっと高度をかせぎたくなる山です。

長万部岳も遠方にのぞまれ、右手には大平山が、連なって見えると頂上はもう間近です。

ブナ林が原始のまま残され、樹齢何十年何百年と言う山林は、他の山にはないめづらしい山ではないでしょうか、晩秋の旅を、十分味わった一日でした。

山の麓には、滝が二つもあり、重滝はこれ又、見ごたえのある良い滝です。春一番に又訪れたい山です。自然がいつまでもありのまま、残ります様に！！

追伸

自然林を大切に保全している皆様のご苦勞を思うと、私達、山行きの方にとっては大変、感謝の気持ちで一杯です。いつまでも黒松内岳がありのままの自然を残してくれる事を願ってやみません。

H20. 12. 4

渡邊則子



↑ブナの回廊を進む登山者

渡邊さん お便りありがとうございました。
これからもお元気で、登山を楽しまれて下さい！

広報「北の森林 国有林」2月号 No.105

発行 北海道森林管理局

編集 保全調整課

〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70

I P 電話 050-3160-6274

電話 011-622-5231

F A X 011-622-5235

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

▽三月二十四日(火)
根釧西部森林管理署
庁舎落成式

釧路市

▽三月十八日(水)
地域管理経営計画等に関する懇談会
局大会議室

▽三月十三日(金)
野幌プロジェクトフォロ
ーアップ委員会
江別市

EVENT INFORMATION

行事・イベント情報